

富岡美子作 「初めてのキャンプ」

効果音 (教室のガヤ)

ナレーション ここは青春高校 2 年B組。待ちに待った夏休みが明日から始まります。その帰り道、話しているのは斎藤香とクラスメートの 2 人です。

堀井 やっと夏休みだぜ。さあて、この休みを有意義に過ごすために何をすべきか？

美由紀 あら堀井君、まじめに勉強するの？

堀井 バーカ！ この俺がまじめに勉強するわけないだろ？

美由紀 それもそうね。ところで、この休みはどこか行くの？

堀井 まあな。ちょっと北海道まで。

美由紀 すごいじゃない。

堀井 ま、土産話を楽しみにしてくれ。

美由紀 ねえ、香はどこか行く？

斎藤香 うん。軽井沢へ行くの。

美由紀 あら、すてきじゃない。家族旅行？

香 違うの。教会のキャンプ。

堀井 教会？ お前のうち、キリスト教なのか？

香 違うわよ。わたしのうちは仏教よ。

美由紀 ところで、教会のキャンプってどんなの？

香 毎年夏になると、そこへ行って聖書の勉強するんだって。わたしは初めて行くからよく分からないけど。

美由紀 青書の勉強！ さすが勉強家の香ね。それで、一人で行くの？

香 お兄ちゃんと。お兄ちゃんに誘われたのよ。あまり行く気がしないんだけどね。

堀井 香のお兄さんって、クリスチャンだったのか？

香 う、うん。

美由紀 (驚いて)エー、初めて知ったわ。香のお兄さん、クリスチャンか。あこがれちゃうな。

香 “あこがれる”ですって？ わたしはイヤだわ。クリスチャンになる前のお兄ちゃんは好きだったけど、今のお兄ちゃんは人が違ったようで、イヤだわ。何かって言うとすぐ、聖書の話をするんだから。キリスト教に熱心なお兄ちゃんなんて、嫌いだわ！

美由紀 どうしてそんなに怒って言うの？

香 別に怒ってないわよ。

ナレーション そうは言ったものの、香はひそかにクリスチャンに嫌悪感を抱いていました。というのは、いま大学 2 年の香の兄が教会へ行くようになってから、こんなことがたびたびあるからでした。

香の父 お前にキリストを信じてもらっては困る。うちは代々仏教なんだから。お前は長男だし、このうちの跡取りなんだから、そんなキリスト教をうちに持ち込まれては困る。分かったな、慎一！

兄慎一 ……。

香(モノローグ) またか。お兄ちゃんが教会へ行くようになってから、いつもお父さんはああなんだから。どうしてあんなに反対されてもお兄ちゃんは教会へ行くのかしら？ 前は日曜になるといつもみ

んなで出かけて楽しかったのに。お兄ちゃんがクリスチャンなんかにならなければよかったのに。

ナレーション 香の兄は、大学1年の時、学校のクリスチャンの先生に勧められて、初めて教会へ行きました。それからというもの、日曜日には欠かさず教会へ行き、やがてイエスを救い主と信じて熱心なクリスチャンになっていました。そして香にいつも熱心に聖書の話をしてきましたが、香はいつも上の空だったのです。

美由紀 …ふーん。そうだったの。そんなにキリスト教がイヤなら、軽井沢何て行かなければいいじゃない。どうして行くのよ。

香 うん、それがね、この間――。

音楽 (ブリッジ)

兄慎一 香、夏休みに特別な予定あるか？

香 別に。

慎一 今度、8月7日から9日に教会の人たちと軽井沢へ行くんだけど、香、お前も一緒に行かないか？

香 軽井沢?! 行きたいなあ。でも教会の人たちと行くんでしょ。

慎一 別に気にすることないよ。みんないい人ばかりだし。

香 でも皆クリスチャンなんでしょ。わたしみたいになんでもない人が行ってもいいの？

慎一 クリスチャンじゃない人も何人か行くよ。

香 ふーん。そこでやっぱり聖書のお話を聞いたり、聖書を勉強したりするんでしょ。わたし、一回も教会へ行ったこともないし、聖書も読んだことないのよ。

慎一 それでも構わないんだ。費用は全部僕が出すから、一緒に行かないか？ きっと何か得るものがあると思うよ。

香 エー、費用全部出してくれるの？…でも、ちょっと考えてみる。

ナレーション 香は、クリスチャンと一緒にということで、だいぶためらっていました。しかし、お兄さんがあまりにも熱心に誘うので、行くことにしました。

音楽 (軽井沢のキャンプ場。ギターと賛美の声。あいさつの声。)

林 こんにちは。香さんですね？

香 ええ、そうですけど。どうしてわたしのこと…？

林 お兄さんから、香さんのことはよく聞いていますよ。リーダーの林です。このキャンプへようこそ！

ナレーション 香にとって初対面の人ばかりでしたが、なんだか以前から知っていたような感じがしました。だんだんと緊張もほぐれて、キャンプリーダーの林さんにいろいろなことを話していました。

林 お兄さんから、香さんがクリスチャンのことをだいぶ嫌っているらしいということを聞いたけど、どういところがイヤなの？

香 そう言われるとなんて言ってもいいか困るんですけど、クリスチャンって、自分のやりたいことを我慢しているように感じるんです。何かいつも縛られているような…。「こういうことをしたらいけない」とか、「ああいうことをしたらダメだ」とか、クリスチャンというのは“いつもこうあるべきだ”みたいな感じがするんです。

林 なるほど。僕もクリスチャンになる前はそう思ってたなあ。ただ外から見ると、そう感じるかもしれない。でも本当の神様を知ると、何が良いことで、何が悪いことなのかが分かってくる

んだ。クリスチャンというのは、自分のしたいことを無理やり我慢しているわけじゃないんだ。例えばクリスチャンは、無理してタバコやお酒を飲まないんじゃないかと思っている人もいるようだけど、そうじゃないんだ。だんだんと飲みたくなくなる、そんなもので気を紛らす必要がなくなるんだな。例があまり良くなかったかもしれないけど。聖書を読んだり、祈ったり、教会へ行ってクリスチャンと交わっているうちに、だんだんと自分が変えられていくんだよ。

香 ふーん。それからね、毎週父に怒られながら教会へ行く兄を見ていて、“そんなにまでして教会へ行く必要があるのかな”っていつも思うんです。

林 “クリスチャンは日曜日には教会へ行かなければいけない”っていう、半ば強制されて行っているんじゃないかって、日曜日には、教会へ行かずにはいられないんだ。喜んで教会へ行っているんだ。

香(モノローグ) どうして…？ 喜んで…？

林 それは、本当の神様を知ってるからなんだ。

香 本当の神様？

林 そう。聖書に書いてある神様だよ。

ナレーション 話していくうちに、香は、クリスチャンに対して偏見を持っていたことに気づき始めました。その夜、香は初めてキャンプの伝道会に出ました。

音楽 (賛美)

司会者 それでは、講師の本田明先生をご紹介します。

本田師 皆さん、こんばんは。初めての方も、このキャンプによろこそいらっしやいました。さて、イエス様がエリコの町を通られた時、――

香(モノローグ) あの先生、顔が輝いてるわ。

本田師 ――あなたの心の中にも、人に言えない悩みがあるのではありませんか？ そのままで、イエス様のもとにいらっしやい。主はあなたのすべてをご存じです。あなたの身代わりに罪を背負って死んでくださるほどに、あなたを愛しておられるのです。

ナレーション 集会のあとには、賛美歌を歌ったり、語り合ったり、香にとって、それは初めて味わったすばらしい一夜でした。ところが次の日の朝――

林 斎藤君、大変だよ。香さんが熱があって起きられないそうだよ。

慎一 え？

林 とにかく部屋に行ってみよう。

慎一 香、香、大丈夫か？

香 (苦しそうに)あ、お兄さん、大丈夫よ。心配かけてごめん。

林 山田君、医務班の吉田さんにすぐ知らせて。それからみんな、香さんのために祈ろう！

慎一 神様、香が初めての慣れないキャンプで熱を出してしまいました。どうぞ妹をいやしてください。

男 主よ、どうぞ香さんを守ってください。み力をもって直してください。彼女が生きて働かれるあなたを知ることができますように。

ナレーション こうしてみんなは香のために祈りました。香は祈りの声に気づき、その祈る姿に驚きを感じました。

香(モノローグ) 初めて会った人たちばかりなのに、わたしのためにあんなに熱心に祈ってくれてる。あれがクリスチャンなのかしら？ わたしは今までクリスチャンに偏見を持っていた。本当はクリス

チャンのことを何も知らないのに。ただキリスト教を批判する人が多くいるというだけで、とっても嫌っていた…。

ナレーション 香の目には涙があふれ、そして今まで感じたことのない暖かいものを感じていました。そして、本当にこのキャンプへ来てよかったと、心の中で思ったのです。

香(モノローグ) そうだわ。わたしも今度の日曜日、お兄ちゃんと一緒に教会へ行ってみよう。

<完>